

令和 6 年 4 月 24 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02433

研究課題名（和文）困難を抱えた女性への就労定着支援のためのシステムとネットワーク構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on system and network construction for employment support for women facing difficulties

研究代表者

野依 智子（Noyori, Tomoko）

福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：40467882

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、困難を抱えた女性の就労支援ならびに就労定着のためのシステムとネットワーク構築の考察を目的としている。そのため、非正規で働くシングル女性の就労支援講座の参与観察を行った。また、困難を抱えた女性と生活・キャリア支援員、就労支援の生活をともにしながら、女性が抱えている課題の解決とキャリア開発、就労支援を同時に行う事例調査では、生活支援・就労支援とともに生活の中で社会保障制度のしくみを学ぶことが女性の自立には重要であることがわかった。これらを踏まえて、全国の男女共同参画センターを対象に女性支援団体・施設との連携についてのアンケート調査を行い、ネットワーク構築のための今後につながった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果は、次の通りである。まず、困難を抱えた女性の就労支援には、当事者とキャリア・生活支援員と就労支援員とともに生活する中で、当事者の抱えている課題（家族関係や生活費の問題など）の解決とキャリア開発、就労支援を同時に行うこと。つまり、生活の中で、家事のノウハウ・生活費のやりくり、年金や健康保険などの社会保障制度について学ぶこと、すなわち労働と生活をつないだ支援が、女性の自立のためには重要であることが明らかになった。このことは、男性稼ぎ主モデルという近代システムの問い直しでもある。また、女性支援団体・施設の連携を模索したアンケート調査は、2024年から施行される困難女性支援法の端緒となる。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research is to consider and examine systems and network construction for employment support and retention of women who are facing difficulties. For this reason, I conducted participant observation of a course on employment support for single women working non-regularly. In addition, in case studies, life and career support staff and employment support staff work together with women who are facing difficulties, and simultaneously provide solutions to women's problems, career development, and employment support. It was found that learning how the social security system works in daily life is important for women to become independent. Based on this, we conducted a questionnaire survey targeting gender equality centers across the country regarding collaboration with women's support organizations and facilities, which led to future efforts to build a network.

研究分野：社会教育

キーワード：労働と生活 困難を抱えた女性 就労支援 生活支援 女性の自立 男性稼ぎ主モデル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当時(2018年9月末、総務省統計局「労働力調査」より)女性の雇用労働の55.5%が非正規雇用であった。1995年に39.1%であった女性の非正規率が、2003年に5割を超えて当時の状況に至っている。一方、男性の非正規雇用率も上昇しており、1995年には8.9%であったのが2005年には17.8%になり、2018年9月末は21.7%である。さらに男女合わせた全体では37.4%、雇用労働の約4割が非正規雇用である。

一方、未婚率も上昇した。1985年の30歳~34歳の女性の未婚率は10.4%であったのが2015年には34.6%、35歳~39歳の場合は、6.6%から23.9%に上昇している(内閣府HPより)。そもそも、女性の非正規雇用というと主婦パートが主流だが、昨今の非正規雇用の上昇と未婚率の上昇は、壮年期の非正規で働く未婚女性の存在を浮き彫りにしたのである。筆者は、2015年に35歳から54歳の非正規で働く未婚女性の調査「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」(横浜市男女共同参画推進協会/大阪市男女共同参画のまち創生協会/野依智子)を行った。この調査では、主婦パートではない壮年期の非正規シングル女性の労働環境と生活実態が明らかとなり、彼女らの存在を可視化したといえる。

以上の調査結果を踏まえた上で、貧困と孤立などの困難を抱えた非正規シングル女性の現状が本研究の背景であった。

2. 研究の目的

本研究は、非正規シングル調査における貧困と孤立の実態ならびに求められるサポートを踏まえて、困難を抱えた女性の就労支援(相談・準備・体験)と就労の継続・定着のための支援システムとネットワーク構築を考察・提示することを目的とする。

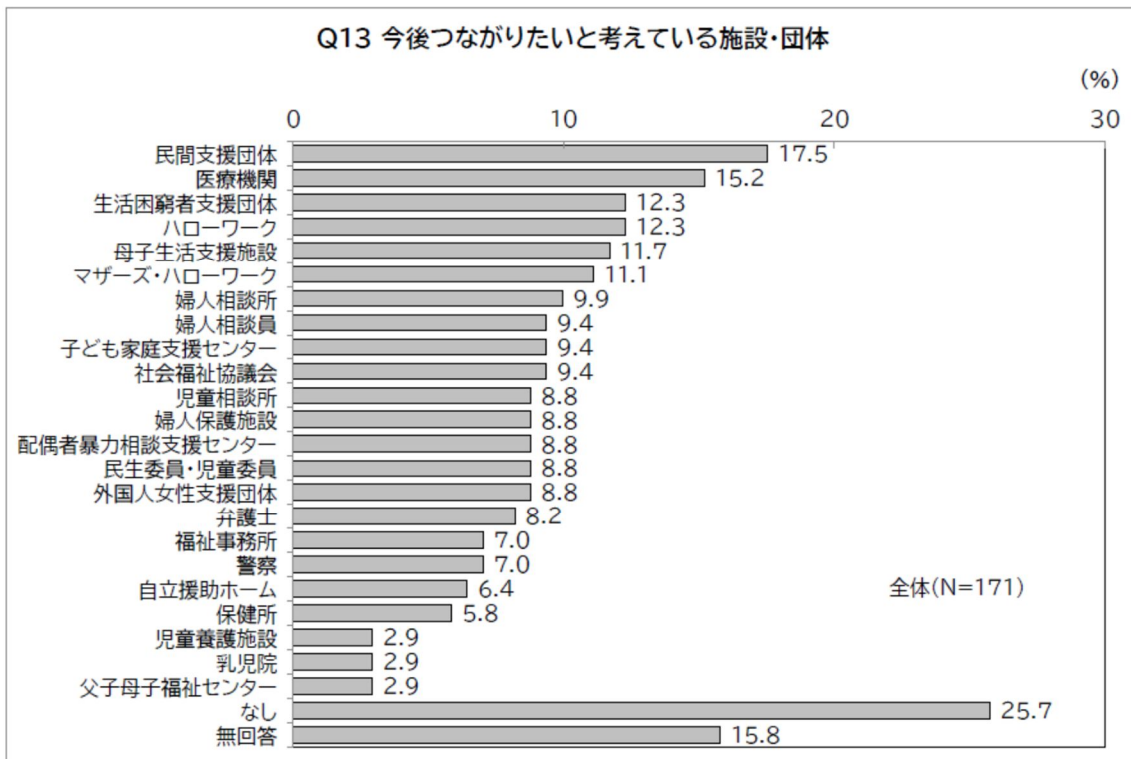
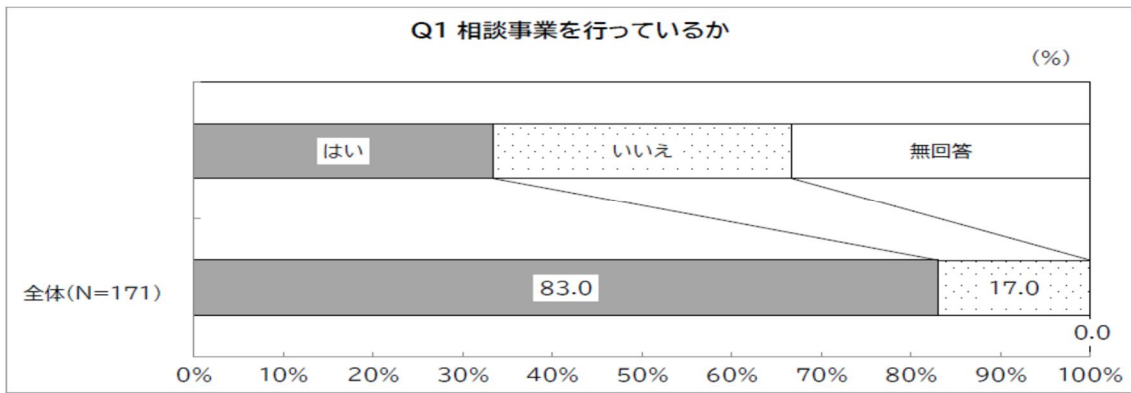
3. 研究の方法

研究方法は、就労相談・就労準備・就労体験・就労定着の4つのステップに分け支援団体へのインタビュー調査ならびに参加観察を行う。また、システムとネットワーク構築のために男女共同参画センターに地域の就労支援体制に関するアンケートを実施する。

4. 研究成果

研究成果は、以下の通りである。

- (1) 横浜市男女共同参画センター実施の35歳以上を対象とした「仕事とくらしのセーフティ講座~パート・派遣・契約で働くシングルのあなたに」の参加観察の結果、正規雇用に期待しているわけではなく「安心して働ける場」「長期間に働ける場」を求めていることが明らかになった。
- (2) 加賀市就労支援事業「こっとりとKAGA」の参加観察では、以下の2点が明らかとなった。女性支援団体の相談事業を窓口にすることによって、単に就労先を確保するだけでなく、就労に関わる様々な課題を解決することにつながる事が明らかになった。相談者と生活・キャリア支援員と就労支援員が生活をともにしながらの支援が、困難を抱えた「女性の自立」には重要であることが明らかになった。つまり、単に就労支援だけを行うのではなく、日常生活の折々に社会保障制度(年金や健康保険制度など)について知ることや経済的に生活すること(生計のやりくり等)を学ぶことは、女性が一人で生きていくための学びでもある。現在の賃金と社会保障制度が「男性稼ぎ主」をモデルとしたしくみであることを知ることは、女性が自立して生きていくために重要なことである。
- (3) 全国の男女共同参画センターならびに女性関連施設369か所に行ったアンケート調査(有効回答数171、回答率46.3%)では、83.0%の男女共同参画センターならびに女性関連施設が相談事業を行っており、上記(2)の成果をシステムに取り入れることの可能性が明らかとなった(グラフQ1「相談事業を行っているか」参照)。また、Q13「今後つながりたいと考えている施設・団体」(複数回答)では、女性支援団体・施設をはじめ児童福祉施設や医療機関など様々な支援組織との連携を求めていることが明らかとなり、ネットワーク構築の可能性を得ることができた。上記(2)のように生活をともにしながら生活支援、就労支援、社会保障制度について学習することができるよう、様々な女性支援団体・施設が連携することの方策を具体化することが今後の課題といえよう(グラフQ13「今後つながりたいと考えている施設・団体」(複数回答)参照)。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 野依智子（掲載予定）	4. 巻 Vol132
2. 論文標題 書評『筑豊の生活保護とキリスト教 - 「制度」か「人間」かをめぐる運動史』細井勇/城島泰伸編著	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 貧困研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野依 智子	4. 巻 なし
2. 論文標題 困難を抱えた女性への労働と生活をつないだ支援 - 生活をともにした就労支援の意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本社会教育学会第65集年報	6. 最初と最後の頁 126 - 137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野依 智子	4. 巻 なし
2. 論文標題 「女性の仕事と暮らしの応援講座」を実施して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性の仕事と暮らしの応援講座事業報告書	6. 最初と最後の頁 17 - 22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野依智子
2. 発表標題 SDGs・ジェンダー平等から見る女性労働
3. 学会等名 北九州市婦人会連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野依智子
2. 発表標題 コロナと女性～ジェンダー平等をめざして～
3. 学会等名 BPW福岡支部・西日本ブロック研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野依智子
2. 発表標題 コロナ禍で顕在化した女性労働-その問題点と解決法
3. 学会等名 北九州ESD協議会研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野依智子
2. 発表標題 福岡女子大学の社会人女性プログラム
3. 学会等名 全国女性会館協議会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野依智子
2. 発表標題 シングル女性の貧困 - 非正規女性の仕事・暮らしと社会的支援
3. 学会等名 加賀ワークチャレンジシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 野依智子（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 274
3. 書名 論点ジェンダー史学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------